

文化財 ニュース

39 Summer 2026

特集

特別展

発見された東京の化石

発見された

東京の 化石



詳細はこちら

化石写真

ナウマンゾウ浜町標本レプリカ（八王子市教育委員会所蔵・提供）、イルカ頭骨・セイウチ上顎骨・ナウマンゾウ下顎骨・臼歯、切歯、臼歯（国立科学博物館所蔵）、トウキョウホタテ（早稲田大学考古資料館所蔵）

Index

- 2-3 特集
特別展
発見された東京の化石
- 4-5 ちよだ歴史文化遺産
日本ハリストス正教会教団の建物
—文化財の追加指定—
- 6-7 Chiyoda コレクション
神田亀住町と亀住稲荷
—「神田亀住町文書」と「小笠原家旧蔵資料」
の接点—
- 8 文化財事務室通信
こんなこともやっています
～データロガーによる温湿度の管理～

特別展 情報

令和8年

8月29日 土 ~ 10月18日 日

開室時間：月～木、土 10:00～19:00

金 曜 日 10:00～20:00

日曜、祝日 10:00～17:00

※入室は開室の30分前まで

会 場：千代田区立日比谷図書文化館
1階 特別展示室

休 館 日：9月21日（月・祝）

観 覧 料：一 般500円、大学・高校生300円

※区内在住者、中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付き添いの方1名は無料（住所が確認できるもの等、証明となるものをお持ちください）

主催

千代田区、千代田区教育委員会、
千代田区立日比谷図書文化館

後援

産業技術総合研究所地質調査総合センター

発見された東京の化石

化石というと、自然豊かな川辺や崖、砂漠など、古い時代の地層が剥き出しになっている場所から見つかるというイメージを持つ方が多いのではないのでしょうか。しかし、高層ビルがひしめく東京の都心部からも、実は数多くの化石が見つかっています。本展では、東京のどこで、どんな化石が、どのように発見されたのかを紹介します。併せて、それらが採れた地層や、千代田区の地形がどのように形成されたのかも紐解きます。



復元画制作：府高航平 Ségawa et al. (iScience, 2025) より Licensed under CC BY 4.0

見どころ1

都心部で発見された化石

千代田区をはじめ、中央区、渋谷区、文京区、台東区などから見つかった化石を紹介します。陸の生物では絶滅したナウマンゾウやヤベオオツノジカなどの大型動物、海の生物では寒い海に棲むセイウチや絶滅したトウキョウホタテなどの化石を展示します。特にナウマンゾウでは、首都高速道路の建設に伴い英国大使館前（半蔵門脇）から発見された化石や、全身骨格標本を製作する上で参考とされた日本橋浜町出土の「浜町標本」や、「原宿標本」の実物化石を特別に展示します。また、区内で最初に確認された更新世の貝化石（五番町貝層）も初公開します。

見どころ2

普段は見られない地下深くの地層

現在陸地の場所からなぜ貝やイルカの化石が発見されるのでしょうか？ その答えは「かつてそこが海だったから」です。

約258万8000年前から始まる更新世では、地球は氷期と間氷期を繰り返す気候になり、標高の低い場所では海水面が上がって海になったり、下がって陸地になったりを繰り返していました。

本展では、都心部に海が広がっていたことがわかる、地下深くから採取してきた35m分の地層（最下部は約33万年前）も展示します。区内の地名が付いた地層も見つけてみてください。



英国大使館前ナウマンゾウ切歯化石発見時の様子（首都高速道路公団 1963『首都高速25号』より／個人蔵）

関連イベント

関連講座1

東京のナウマンゾウ —都市の開発でめざめたゾウたち—



詳細・申込

日本の代表的な化石のひとつであるナウマンゾウについて最新の研究成果も踏まえて紹介します。

日時 9月19日（土）14時～15時30分

講師 高橋 啓一（滋賀県立琵琶湖博物館 名誉館長）

申込開始日 8月1日（土）10時～

関連講座2

千代田区の地形・地質の 成り立ちを探る



詳細・申込

過去の気候変動による海面の昇降と、地殻変動を反映して形成された区の地形・地質の成り立ちを紹介します。

日時 9月27日（日）14時～15時30分

講師 鈴木 毅彦（東京都立大学都市環境学部 教授）

申込開始日 8月9日（日）10時～

関連講座3

東京の地下に眠る貝化石



詳細・申込

貝化石を手がかりに東京の地層の形成と産地の特徴、過去の気候変動の実態を紹介します。

日時 10月4日（日）14時～15時30分

講師 佐々木 猛智（東京大学総合研究博物館 准教授）

申込開始日 8月16日（日）10時～

福井県とのコラボ企画 スペシャル講演 福井県のジオ（Geo）年縞×恐竜 研究の最前線 2026

区と福井県が連携協定を締結していることから、今回の特別展でのコラボが実現しました。

日時 10月12日（月・祝）14時～16時

申込開始日 8月24日（月）10時～



詳細・申込

第1部

7万枚の地層を数える

—日本の小さな湖が「世界標準ものさし」になるまで—

講師 中川 毅（立命館大学 古気候学研究センター長・教授）

第2部

恐竜研究はここまで進んだ

—日本の恐竜と最新研究が描き出す恐竜—

講師 柴田 正輝（福井県立大学恐竜学部 教授）

※会場、定員、参加費は関連講座に同じ

いずれも

会場 日比谷図書文化館 地下1階
日比谷コンベンションホール（大ホール）

参加費 1,000円（千代田区民500円）

定員 200名（申込順／定員に達し次第締切）

申込方法 お申し込みフォーム、電話（03-3502-3340）、ご来館（1階受付）いずれかにて下記情報をご連絡ください。①講座名 ②お名前（ふりがな）③電話番号 ④メールアドレス（お申し込みフォームのみ）

担当学芸員によるギャラリートーク

日時 9月4日（金）、9月25日（金）、10月16日（金） すべて18時から30分程度

会場 千代田区立日比谷図書文化館 1階 特別展示室

申込・参加費不要（別途入場料は必要）

千代田ミュージアムネットワーク連携講座 化石掘り体験

露頭（地層や岩石がむき出しになっている場所）で、貝や魚の化石を探します。

日時 10月10日（土）13時30分～16時（予備日：10月17日（土））

会場 多摩川河川敷（小田急線和多摩川駅集合）

講師 宮田 真也（城西大学水田記念博物館大石化石ギャラリー学芸員／理学部助教）

対象 小学5年生～中学3年生とその保護者

定員 10組20名（応募者多数の場合抽選／千代田区在住・在学者優先）

参加費 1組500円

申込期間 8月22日（土）10時～9月7日（月）17時



詳細・申込

日本ハリストス正教会教団の建物—文化財の追加指定—

令和8年(2026)1月15日付で、千代田区内の国指定重要文化財(建造物)について追加指定がありましたので、紹介します。

追加指定の対象となったのは、日本ハリストス正教会教団(神田駿河台4-1)敷地内にある建物4棟(旧本館・旧住宅・旧図書館・旧門衛室)と、周囲を囲う石積・石垣(囲障)になります。

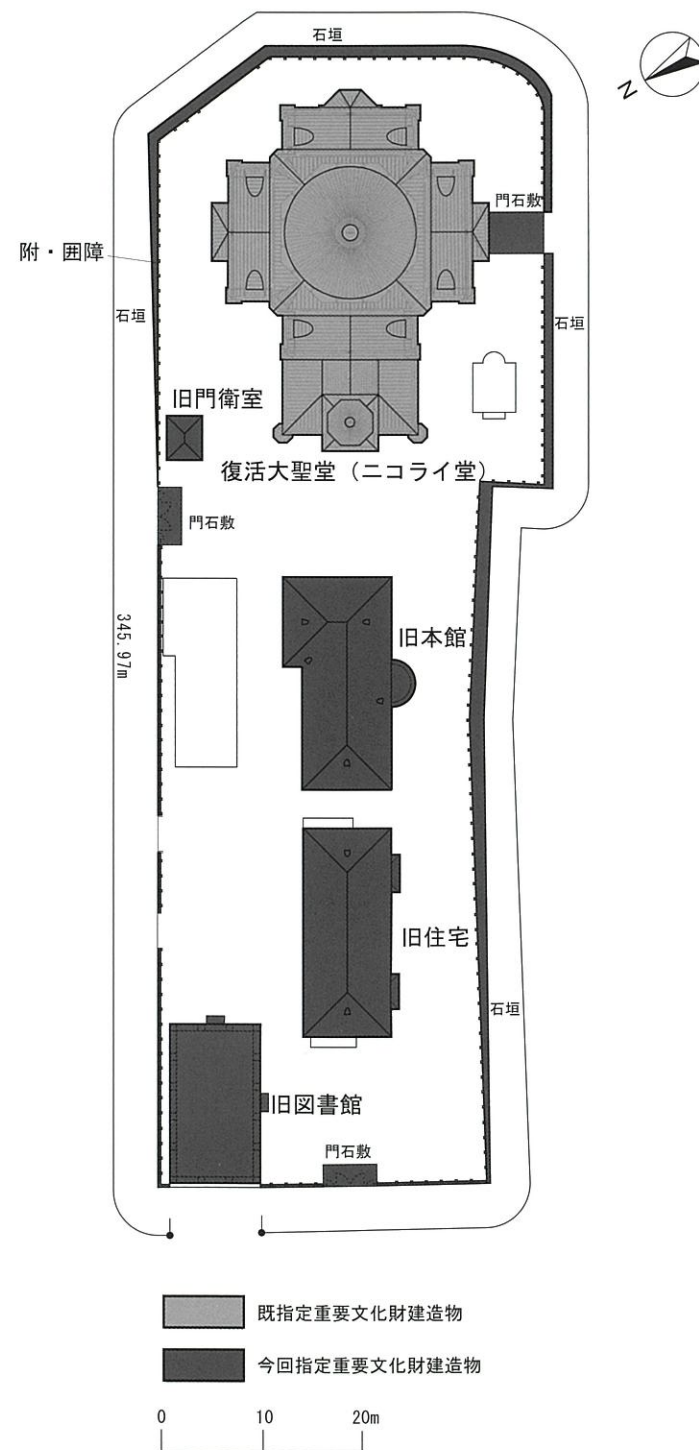
この敷地内には、復活大聖堂(通称、ニコライ堂)があり、昭和37年(1962)6月21日付で重要文化財の指定を受けています。復活大聖堂は、明治24年(1891)2月に竣工しますが、関東大震災で被災して昭和4年(1929)に修復、さらに平成4年(1992)から平成13年(2001)まで保存修理が行われました。

この敷地の歴史を紹介すると、江戸時代初期には旗本屋敷がありましたが、中期以降は幕府直属の定火消屋敷が置かれました。そして、明治5年(1872)に箱館からニコライ司教が東京に移住すると、この敷地を購入して布教活動の拠点としました。

今回追加された4棟のうち、まず旧本館と旧住宅の2棟が、明治8年(1875)に竣工しました。ニコライの東京移住の3年後には、この地に居住するとともに布教活動を行っていたことになります。明治16年(1883)の東京図にも、旧本館と旧住宅の建物が2棟とも図上に書かれています。なお、「旧本館」の北



旧本館と旧住宅



配置図(文化庁提供)



几号水準点



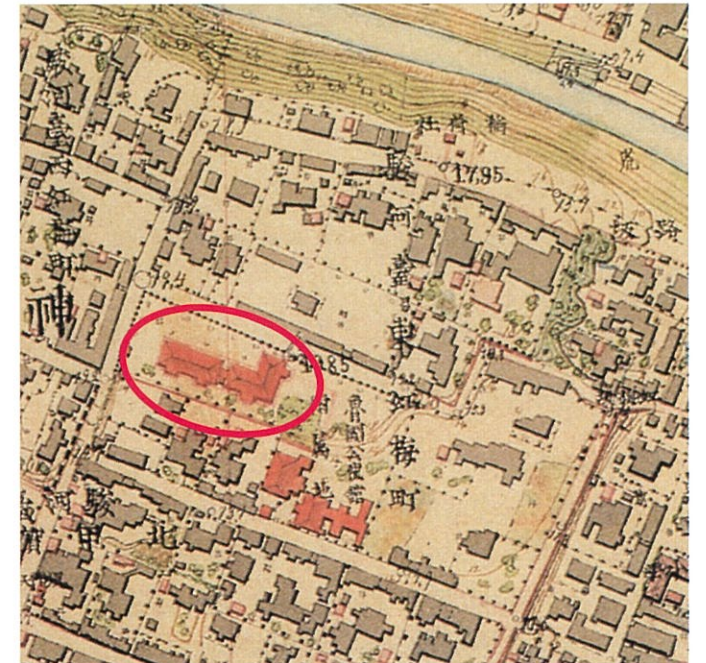
旧門衛室



旧図書館



囲障と石垣



五千分一東京図測量原図(部分)、明治16年((一財)日本地図センター)
※○の中が旧本館と旧住宅

側の外壁には漢字の「不」の文字に似た記号が刻まれています。これは、几号水準点という測量基点で、明治9年(1876)に設けられています。東京市内とその近郊の石垣や石造物、建造物に設けられたといわれ、その一つがこの場所にあるのです。内務省の『地理局雑報』第10号(1879)にも、「駿ヶ台ニコライ氏邸」とあります(現在は工事中のため見ることはできません)。

その次に竣工したのは旧門衛室で、復活大聖堂と同じ明治24年(1891)と考えられます。最後に、明治28年(1895)8月に旧図書館が竣工して、現在の敷地内の建物構成が固まったようです。

また、敷地を取り囲む囲障は、大聖堂が竣工した明治24年(1891)頃の完成と考えられています。2段積みみの石積とともに、東側から南側にかけては高台の土地を整地した痕跡である石垣も残されています。

なお、現在では北側と西側に敷地への出入口がありますが、かつては大聖堂の南にも門がありました。南門は石段とともに撤去され、石敷だけが現在でも残されています。

正教会草創期の煉瓦建築である旧本館と旧住宅、その後に建てられた旧図書館と旧門衛所を含めて、大聖堂とともに、明治時代のハリストス正教会教団の敷地構成を現在に伝えるものとして歴史的価値が高いことが、評価されました。(学芸員 高木知己)

神田亀住町と亀住稲荷―「神田亀住町文書」と「小笠原家旧蔵資料」の接点―

千代田区が所蔵する「神田亀住町文書^{かめずみ}」と「小笠原家旧蔵資料」は、資料の伝来も、区に寄贈された時期も全く異なる2つの資料群です。しかしこれらの資料を読み解くと、「神田亀住町」というかつて神田に存在した町と、「亀住稲荷」という神社のことが浮かび上がってきます。今回はこの2つの資料群の接点となる、神田亀住町と亀住稲荷について紹介します。

「神田亀住町文書」とは

1つ目の資料群「神田亀住町文書」は、昭和50年(1975)に町会から区に寄贈されました。点数は266点で、明治5年(1872)から大正12年(1923)までの記録です。内容としては、①神田亀住町、②亀住稲荷、③下谷神社、に関する資料で構成されています。江戸から明治への移行期(明治維新时期)は人口の流動が激しく、古文書などは極めて残存しづらいのですが、「神田亀住町文書」の中にはこの地域で綴られた貴重な記録が残っています。特に、町会の維持管理や亀住稲荷・下谷神社の祭礼にかかった経費などについては詳細に記されています。平成22年(2010)には資料群の価値が認められ、千代田区指定有形文化財(古文書)に指定されました。

この資料群が残された神田亀住町は現在の千代田区外神田五丁目にあたり、亀住稲荷もそこに鎮座しています。町と稲荷の歴史は明治初年まで遡ることができ、明治13年の由緒書⁽¹⁾には以下のことが書かれています。

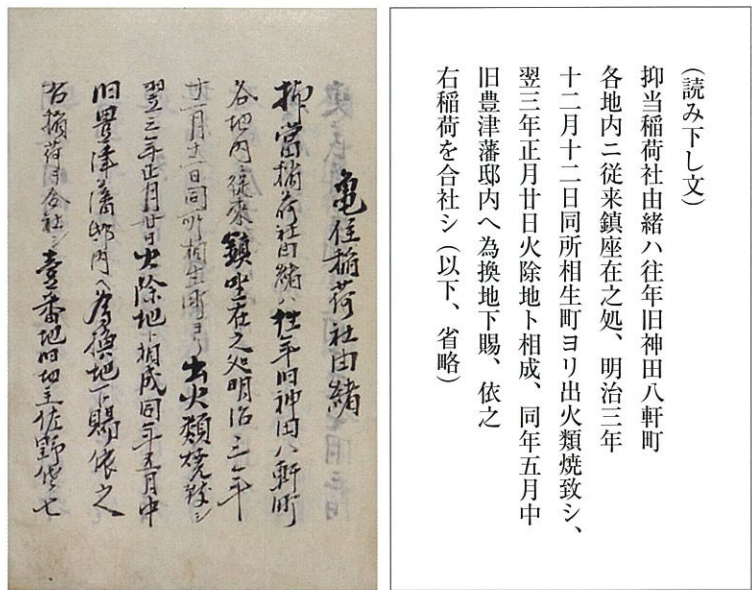
明治2年(1869)、神田六軒町、柳原大門町、神田八軒町、上野町代地が合併して町が成立しましたが、翌年に神田相生町で発生した火災により類焼してしまいます。火事後、かつての町域は火除地^{ひよけち}(火災の延焼を食い止めるための空地)となり、代わりに「ある大名家」の中屋敷の跡地が与えられることになりました。この大名家とは、旧小倉藩(現在の福岡県北九州市／明治初期に豊津藩(現在の福岡県みやこ町)に移転)の小笠原家(宗家／府中小笠原家とも呼ぶ)です。ここで、神田亀住町と小笠原家がつながることになります。由緒書によれば、亀住稲荷は、神田八軒町に元々あった「稲荷社」を「合社」したとあります。つまり、小笠原家の屋敷内にあった稲荷と合社され⁽²⁾、今に至っているのです。

「小笠原家旧蔵資料」とは

2つ目の資料群「小笠原家旧蔵資料」は、令和4年(2022)に区に寄贈されました。84点のうち、古文書や版本が42点、扁額や掛軸等が42点となっています。小笠原家は、鎌倉時代から信濃国を拠点に勢力を伸ばし、信濃国守護を務めた家系で、江戸時代には小笠原秀政を祖として複数の大名家、旗本家に分かれました。秀政の家督は次男忠政(忠真)が継ぎ、小笠原家(宗家)が代々小倉藩主を務めることになりました。



現在の亀住稲荷(千代田区外神田五丁目4-7)



亀住稲荷の由緒書(明治13年、「神田亀住町文書」)

区に寄贈された「小笠原家旧蔵資料」は、複数の小笠原家のうち、長秋系小笠原家(かつて区が行った調査では「三味線堀小笠原家」と呼称⁽³⁾)に伝来した資料です。長秋

系小笠原家は、祖である秀政の三男忠知の四男長秋から始まる家系で、代々両番筋⁽⁴⁾を務めた2000石の旗本です。「小笠原家旧蔵資料」には、旗本知行に関する目録や覚書、屋敷図面などの長秋系小笠原家に直接関わる記録のほかに、小笠原家(宗家)に関する資料(秀政～忠知家臣団の事蹟、家譜、兵法書など)が多数含まれているのも特徴です。旗本である長秋系小笠原家と、神田亀住町の土地が交換された大名の小笠原家(宗家)は異なる系統の家ですが、長秋系小笠原家にとっても祖である秀政以来の事蹟や家譜を保管することは、「家」を受け継ぐために重要だったとも考えられます。

さて、神田亀住町と亀住稲荷に話を戻すと、明治12年(1879)には亀住稲荷を民間で管理にしたいという願い出が町会から東京府に出されており、受理されています⁽⁵⁾。神田亀住町は明治44年(1911)に「亀住町」、その後再び「神田亀住町」、そして昭和39年(1964)に「外神田」と、何度か町名が替わりつつも、町の人々は現在に至るまで一貫して亀住稲荷を維持・管理してきました。

今回は、令和6年度に開催したテーマ展「学芸員が推したい!千代田区指定文化財」に向けた準備の中で発見した「神田亀住町文書」と「小笠原家旧蔵資料」の接点である、神田亀住町と亀住稲荷についてご紹介しました。たとえ伝来の全く異なる資料群だとしても、そこに含まれる資料を比較・分析することで、共通の事柄についての理解が深まる場合もあります。当館では、来年2月6日から千代田区指定文化財展を開催予定です。「神田亀住町文書」をはじめ、区が所蔵する指定文化財を多数ご覧いただく機会となれば幸いです。また、神田の町で古い由緒を持つ亀住稲荷にも、ぜひ足をお運びください。

(学芸員 篠原杏奈)

〔付記〕

小笠原文庫の資料利用に際し、みやこ町歴史民俗博物館の木村達美氏に御高配を賜りました。記して御礼申し上げます。

参考文献

- ・『千代田区文化財調査報告書17 千代田の稲荷』千代田区教育委員会、2008年
- ・『千代田の古文書2』千代田区教育委員会、2013年

脚註

- (1) 明治13年3月「亀住稲荷由緒・建設之原由・寄附人名之部」(「神田亀住町文書」、番号:8643-2)。
- (2) 亀住稲荷が元々小笠原家の邸内に鎮座していたとある(『新撰東京名所図会』第23編 神田区之部下巻之二、東陽堂、1902年)。
- (3) 幕末、三味線堀(現在の台東区)に1,460坪の屋敷が与えられていたことにちなむ(滝口正哉「解題」『千代田の古文書2』千代田区教育委員会、2013年、151頁)。
- (4) 幕府の軍事職制である、書院番と小姓組を交互に努める家筋のこと。
- (5) 「神田亀住町稲荷社深川霊岸町安民寺外17ヶ寺境内民有地下渡願の件」(「稟議録・社寺境内下渡〈租税課〉明治12年～明治13年」東京都公文書館所蔵、請求番号:611.B7.01)及び「神田亀住町10番地稲荷神社境内同神社へ下け渡受書」(「社寺境内地下渡請書・下谷区、深川区・全〈租税課〉明治12～13年」東京都公文書館所蔵、請求番号:611.B7.05)。

日比谷図書文化館の館内を歩くと、時折「現在、計測中です。」のパネルと共に下図のような小さな機械が設置されているのを見ることができます。この機械はデータロガーと言い、周辺の環境データを記録する計測器です。

文化財事務局ではデータロガーを使い、温湿度のデータを集めて、展示環境の管理を行っています。温湿度の維持管理は、文化財を保存する上でとても重要です。日本のような湿潤な気候ではカビが繁殖しやすいため、急激な温度変化による結露や高温・高湿度の持続は、文化財に対して致命的な影響を及ぼしかねません。また、乾燥しすぎた場合も、亀裂・破砕など損傷が発生しやすくなります。

そこで、通年の維持管理のために、様々な場所にデータロガーを設置して温湿度の管理を行っています。前年度までのデータや、他の場所に設置したロガーのデータと比較することにより、異常があれば速やかに対処できる体制を整えています。

小さな機械ですが、実は文化財の保全に大きな役割を果たしていると言えます。

(学芸員 井坂綾)



手のひらサイズのデータロガー



常設展示室でも稼働中



東京メトロ ●千代田線
●日比谷線

都営地下鉄 ●三田線

駐車場 当施設に駐車場はありません。

開館時間 月～金 10時～22時

土 10時～19時

日・祝 10時～17時

文化財事務局 月～金 10時～18時



文化財ホームページ

※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。
最新情報はホームページ等でご確認ください。

休館日 毎月第3月曜日

文化財ニュース 第39号 (3,000部)

発行日 令和8年7月30日

編集 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務局
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
TEL: 03-3502-3348 FAX: 03-3502-3361
<https://www.edo-chiyoda.jp>

発行 千代田区教育委員会

印刷 株式会社白峰社